

カタールの現状と日本の今後の貢献



2011年1月20日

カタール及びカタール人基礎知識

カタールの位置



カタールの国情

日本人のカタールへのイメージ

日本人にはまだ馴染みが少ない
カタール航空(格安航空券)
2022年ワールドカップ開催地

「小国」

面積は**秋田県**とほぼ同じ
(南北で最大200km、東西で最大80km)

人口は約170万人(近年、急激な人口増加)
カタール人人口は約25万人
(インド人及びネパール人は各約40万人)
男女比は3対1(外国人労働者急増のため)

カタール人の一人当たりGDPは約40万ドル
(GDPをカタール人だけの人口で割ったもの)



カタール人

敬虔なイスラム教徒(ワッハーブ派)

温厚、友好的、但し、初対面ではシャイ

部族が中心。従って、家族・親族の結束が強い

糖尿病、遺伝子欠陥による病気の罹患率が高い

既婚女子の平均した子供の数は4人

高い語学力



女性の服装

女性は体の線を出してはいけない

高温の乾燥地帯では、体を覆う服装は合理的

化粧は目の周り(アイライン、アイシャドウ)

自宅では派手な服装



ヘンナ

- イスラム社会やインドで親しまれている染料
- 女性にとって人生の節目に当たる大事な行事、特に結婚式にはなくてはならないもの
- 染料としての役割に加えて、魔除けとしての意味を持つと理解されている。



男性の服装

白の服(ソーブ)、頭には白い布(グットーラ)
を被る

国によって、頭の布の織り方等が異なる

大人のお洒落は時計、カフス、万年筆

子供はグットーラは使わない



結婚

結婚は見合いで、**従兄妹婚が主流**

結婚式は男女別、女性の結婚式は盛大(カラフルなドレス、宝飾品)

結婚式には膨大な資金が必要

結婚時に持参した女性の財産は守られている。最近では離婚も多い。



アルジャジーラ

世界的に有名なニュースを中心とする放送局
(アラビア語、英語)

英語はワシントン、KL、ドーハ、ロンドンに
スタジオ

首長家より財政援助を受けるが、**自主的
な番組製作**(サウジに関する内容以外は)

米国、サウジなどの周辺諸国の軋轢
オサマ・ビン・ラディンの肉声放送
イスラエルのガザ侵攻の中継
サウジ王家のスキャンダル

過激思想に対する安全弁としての役割も
カタールには約1万人の米軍が駐留



日本文化とカタール

女子学生を中心に日本のアニメ、テレビ番組
アイドル(例えば、嵐)に対する関心が高く、
インターネットで視聴

和太鼓などへの関心も高い

このため、インターネットで日本語の独学する
大学生が多い

毎年行われる日本語コンテストには高校生、
大学生及び社会人が参加

カタールの皇太子及び第二王女(首長室長)
も新婚旅行に日本を訪問



カタールの若者

若者の間では、欧米流の文化の影響が大きい
ブランド好き
インターネット、携帯好き
3Kの仕事(サービス業など)は嫌い

男子高校生の規律厳格化

携帯の学校への持ち込み禁止
長髪禁止、アクセサリー着用の禁止
国民服(ソーブ、グットーラ)着用
学校での国旗掲揚、国歌斉唱

親の子供への躾教育はたるみがち



カタールの現状と日本の役割

カタールを取り巻く国際的な環境（政治面）

中東における**メイン・プレイヤーになりたいという願望**

95年のクーデター以来の拗れていたサウジとの和解

アルジャジーラの放送内容も含めて、サウジへの気遣い、国境の画定合意

レバノンの政治的和解への手助け（フランス、シリアと協同）（2008年5月）

スーダン・ダルフル紛争の仲介

中東問題に関するあらゆるコネクションの維持

（ハマス、ヒズボラ、イスラム同胞団、イラン、トルコ、フランス、米国、イスラエル）

（フセイン元大統領の妻子、オサマ・ビン・ラディンの息子オマルの滞在）

米軍中央軍航空管制・指揮所、中央軍前線指揮所（有事の場合のみ）の存在
（イラク、アフガニスタンの空域管制）

カタールを取り巻く国際的な環境（経済面）

世界一のLNG輸出国(7700万トンの生産設備)

国際金融面で活発な動き

バークレー銀行の株買収(2008年)

フォルックワーゲンの株買収(2010年)

ハロズの買収(2010年5月)

アフリカ諸国を中心として貧困国への積極的な経済支援

国際会議の誘致

ドーハラウンド(2001年11月)

国連開発資金会議(2008年12月)

ワシントン条約(CITES)締約国会議(2010年3月)

世界経済フォーラム特別会合(2010年5月)

気候変動枠組条約COP18(2012年の開催をめぐり、韓国と鞘当て)

カタールの直面する問題点

政治面

キー・プレイヤーの不足とそれから派生する政策面のブレ
(2009年初頭のガザを巡るエジプト、ヨルダンとの軋轢)
仲介外交における小国としての限界(飴はあるが、鞭がない)

経済面

ガス市場の軟化への対応の不備(タンク、タンカー、価格政策、副産物)
ドバイ金融危機後のバブルの崩壊(銀行、不動産対策)
膨大なインフラ事業と管理能力の不足(公共事業庁など)
短期的な資金流動性の不足(膨大な資産とのアンバランス)

カタールは現在、調整局面

ドバイ金融危機前の**自国への自信に揺らぎ**

「2009年は9%、2010年は16～17%の成長しているのに、その実感がない」と
晴れない国民の気持ち

国営企業(QP)等の投資資金は**内部資金から外部調達へ**
(短期的な資金流動性の不足の裏返し)

インフラ事業、大盤振る舞いの事業の見直し
地価の下落
空きの目立つオフィスビル、マンション

2022年のワールド・カップを理由とした新インフラ政策への期待

カタールの将来を創る20年計画

2030年を目標とするマスタープランを作成中

過度の石油・ガス依存を是正して、新しい国家を創ることが目標
日本のオリエント・コンサルタントが中核となって作業

問題は石油化学、肥料、鉄鋼、アルミ精錬のほか、産業の目がないこと
また、計画づくりが二頭立てとなっていること

地方自治・都市計画大臣ーオリエント・コンサルタント
首長府経済顧問ーボストン・コンサルティング

カタールへの日本としての貢献のあり方

今が日本のチャンス

カタールの国民の先行きの鬱々とした気持ち
短期的な資金流動性の不足
具体的な産業育成の目途のないマスタープラン

ただ、日本国内には中東について**模様眺めの機運**

エクポージャーをこれ以上ふやすな(建設)
物売りに徹したいという営業姿勢(メーカー)

また、物づくりへの強いこだわり(エンジ、メーカー)
ニーズはあるが、自らコンサルに徹することができない。
EPCコントラクターとの交渉のみで、発注者のコンサルへは根回し不足

金融は「**今が、貸すチャンス**」

カタールの資金を日本へ投資というのは非現実、むしろ貸し込むチャンス
カタールは中期的には豊富な資金を享受

資金を融資するとき、単に貸し込まないことが大事
商社等と一体となったバーゲニングが必要(対韓国、中国対策)

マスタープランを含め、**コンサル業務(知恵付け)が大事**

米国は国立病院のシステム作りから参画、日本の医療器械の参入余地なし
実現には問題あっても、前向きなアドバイス、対応が大事

例 カタールは架線ないLRT(充電池式のモーター車)に乗り気だが、夏の外
気温が問題

シーメンスは積極的な対応、日本は・・・??

日本のプロジェクトへ資金の担い手として誘い込むことも有効

既に、カタールは海外での鉱山開発への参加に興味を表明

来年は日本・カタール国交樹立40周年

これをチャンスにハイレベルの交流を
2007年5月の安部総理訪問以降大臣クラスの訪問なし

政治面でもカタールへの働き掛けが必要

中東和平、スーダン等に関する日本の政策とのリンケージ
安全保障面での情報収集(軍事訓練へのオブザーバー参加、語学教育)
米国は湾岸における中国のプレゼンスを警戒(エネルギー開発)

